

脳梗塞(TIA含む)患者のうち入院2日目までの抗血栓・抗凝固療法

処方割合

QI 項目の解説

脳梗塞急性期における抗血栓療法として、発症48時間以内のアスピリン投与が確立された治療法となっています。また、「急性期脳梗塞治療ガイドライン2013」では、脳梗塞急性期における抗血小板療法として、アスピリンを脳梗塞発症から24~48時間以内に投与することを推奨しています。したがって、適応のある患者には第2病日までに抗血栓薬の投与が開始されていることが望めます。本指標では、より高い値が望ましいとされています。

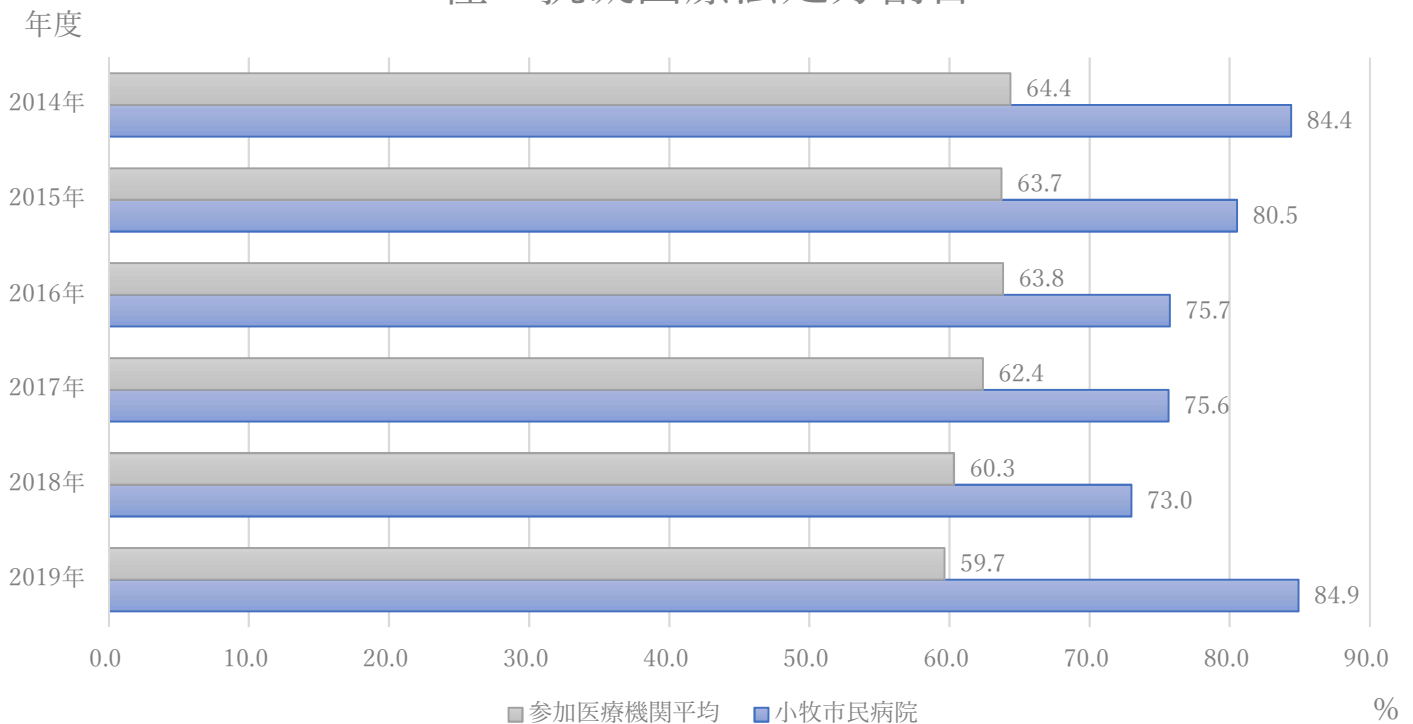
脳梗塞(TIA含む)患者のうち入院2日目までの抗血栓・抗凝固療法処方割合

QI指標の定義・計測方法

分子：入院2日目までに抗血栓療法もしくは抗凝固療法を受けた患者数
分母：18歳以上の脳梗塞かTIAと診断された入院患者数

×100単位 (%)

脳梗塞(TIA含む)患者のうち入院2日目までの抗血栓・抗凝固療法処方割合



2019 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

重症例が多く、治療最初から抗血小板剤必要な症例が多くなりました。

2019当院データと2018当院データとの比較・原因分析

2018年度が73.0%に対し、2019は84.9%と11.9ポイント上昇しました。

数値改善に向けた今後の取り組み

今後、より検査（MRI・頸動脈エコー・心エコー）結果とエビデンスに基づいた投薬・治療対応が必要と考えられます。

2018当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

超高齢者や嚥下の問題で、抗血小板剤内服できないケースが多くなってきている状況です。